

令和3年度 第1回浦安市郷土博物館協議会議事録（議事要旨）

- 1 **開催日時** 令和3年7月30日（金） 午後2時～4時
- 2 **開催場所** 郷土博物館 視聴覚室
- 3 **出席者**
（委員）明保治男委員長、舘里枝副委員長、石川三佳委員、前田智幸委員、吉野忍委員、男全寛子委員 欠席1名
（事務局）鈴木教育長、金子生涯学習部長、森田生涯学習部次長、金子館長、島村副主幹、尾上主任学芸員、林主任学芸員、中川副主査、袖山（記録）
（傍聴人）1名

4 **議 事**

1. 開会

- (1) 委嘱状の交付について
- (2) 教育委員会あいさつ
- (3) 正・副委員長の選出について
- (4) 正・副委員長あいさつ

2. 議事

- 報告事項 (1) 浦安市郷土博物館の概要について
(2) 令和2年度 郷土博物館の活動報告について
(3) 令和3年度 郷土博物館の活動計画について

その他

5 **会議経過**

会議に先立ち、委嘱状の交付を行った。交付後、鈴木教育長、各委員があいさつを行った。

引き続き正・副委員長の選出を行い、委員長に明保治男氏、副委員長に舘里枝氏が選出された。

明保委員長、舘副委員長のあいさつ後、事務局紹介を行った。

議事 報告事項

(1) 浦安市郷土博物館の概要について

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、特になし。

(2) 令和2年度 郷土博物館の活動報告について

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、特になし。

(3) 令和3年度 郷土博物館の活動計画について

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記の通り。

■火おこし体験について

- (委員) 火おこし体験について、感染症流行の中どのようにやれるのかと思っていたが、学校への出張という形でやることができ、子どもたちにとってよい体験になったと思う。しかし、やはり博物館に来館して、屋外展示場で体験できたらと思う。感染症の状況を見ながら検討してほしい。
- (事務局) 学校への出張においては、室内で実施したほうが子どもたちでも火をおこしやすいという発見もあった。来年に向けて、よりよいやり方を検討していきたい。

■ジュニア学芸員について

- (委員) ジュニア学芸員の参加者の地域構成はどうなっているか。
- (事務局) 市全域からまんべんなく集まっている。
- (委員) ジュニア学芸員を養成し、学校でまち探検を実施する前に、子ども同士で見どころを教えあえるとよい。どういうふうに子どもたちの関心を引き、伝えていくかということが大切であると思う。
- (委員長) 参加した子どもたちの反応や意識はどうか。また、今後の展望はどのようなのか。
- (事務局) 定員以上の申し込みがあるなど、市民の方の強い関心があった。博物館が学校外の活動の受け皿にもなっていると感じている。
ジュニア学芸員講座は、第1回の講座では、博物館の学芸員の仕事を子どもたちに伝えることを重視し、学芸員による講習は子どもたちにも好評であった。第2回の講座では展示解説の練習を行い、子ども同士のコミュニケーションの育成の場ともなった。ジュニア学芸員が、自分たちの学校や教室で活躍して欲しいと考えている。
- (委員) 大切なのは長く続けることだと思うが、長く続けるモチベーションのためには、活躍できる本番の企画があるとよいと思う。
- (事務局) 第1回の認定者には「博物館まつりナイト」で協力していただく予定である。そのほか、秋のイベントや、休日体験などで活躍をしてもらいたいと考えている。
- (委員) ジュニア学芸員は来年も募集するのか。
- (事務局) 年をまたいで講座を受けることができるので、毎年募集を行っていく。学芸員として認定を受けた子どもに対しても、応用講座「スペシャル学芸員講座」を実施し、本人の興味関心に合わせて深めていくことができるようにする。
- (委員) 中学生が小学生に教えるというような、子ども同士のやり取りがあるとよい。ジュニア学芸員が学校の社会学習授業などで話をするなどのカリキュラムがあってもよいと思う。

- (委員) ホームページを通し、ジュニア学芸員に申し込みを行わなかった人や、定員に達し申し込めなかった人へ何か発信していることはあるのか。
- (事務局) ジュニア学芸員専用のページに、活動報告や今後の予定などを掲載しているが、参加者しか閲覧をしていないという印象である。今後、さらに周知を行っていく。

■その他博物館事業について

- (委員) 親子でのりまき体験や、あさりの貝むき体験、夕涼み体験などを博物館で行ったことがあるが、ボランティアとのふれあいや、様々な体験を親子で楽しむことができた。
- (事務局) 博物館の利用者の多くが親子づれであり、特に幼児から小学校低学年くらいの親子が多い。小学校高学年、中学生、大人になっても活動できる体験を行っていきたい。高学年向けの体験にも、低学年の申し込みが多いというのが現状であり、今後の課題でもある。
- (委員) 博物館活用推進委員会の内容と、博物館協議会との役割の違いについて教えてほしい。
- (事務局) 活用推進委員会は、市立の小中学校から各1名ずつ推薦された教師で構成され、博学連携事業に尽力していただいている。今年度は3年生の地域学習、5年生の環境学習、中学校の道徳の教材作りを重点的に行っている。また、「ふるさと浦安相談会」への参加、ホームページに掲載する動画への出演なども行っている。
- 活用推進委員会と博物館協議会の違いについて、活用推進委員会は博学連携事業に特化し運営されており、協議会は、博物館の諮問に応じて、博物館の運営全般について評価し、意見を述べる機関である。

■展示リニューアルについて

- (委員) 昔浦安には芸人が多くいて、浦安の劇場で拍手が鳴って一人前と言われたという。リニューアルや博物館の事業でこういった歴史も生かしてほしい。
- (事務局) 現在テーマ展示室にある「浦安亭」は、講談師が浦安の歴史を紹介するというブースである。ブース自体はリニューアルでなくなるが、映像は保存し活用していく。
- (委員) 博物館は堅い、暗いなどのイメージがあると思う。若者や子どもがワクワクするような要素があるとよいと思う。
- (委員) 「浦安の自然」部分について、時代ごとの変化を見せられるとよいと思う。
- (事務局) 昔と今の変化について、海を身近に感じてもらえるような展示にしていきたい。
- (委員) 将来的にも、もっと浦安の自然環境を大切に、きれいにしていこうというコンセプトを発信して欲しい。

閉 会

以上をもって、令和3年度 第1回浦安市郷土博物館協議会は、閉会した。